

消防新時代をデザイン

近代消防

3

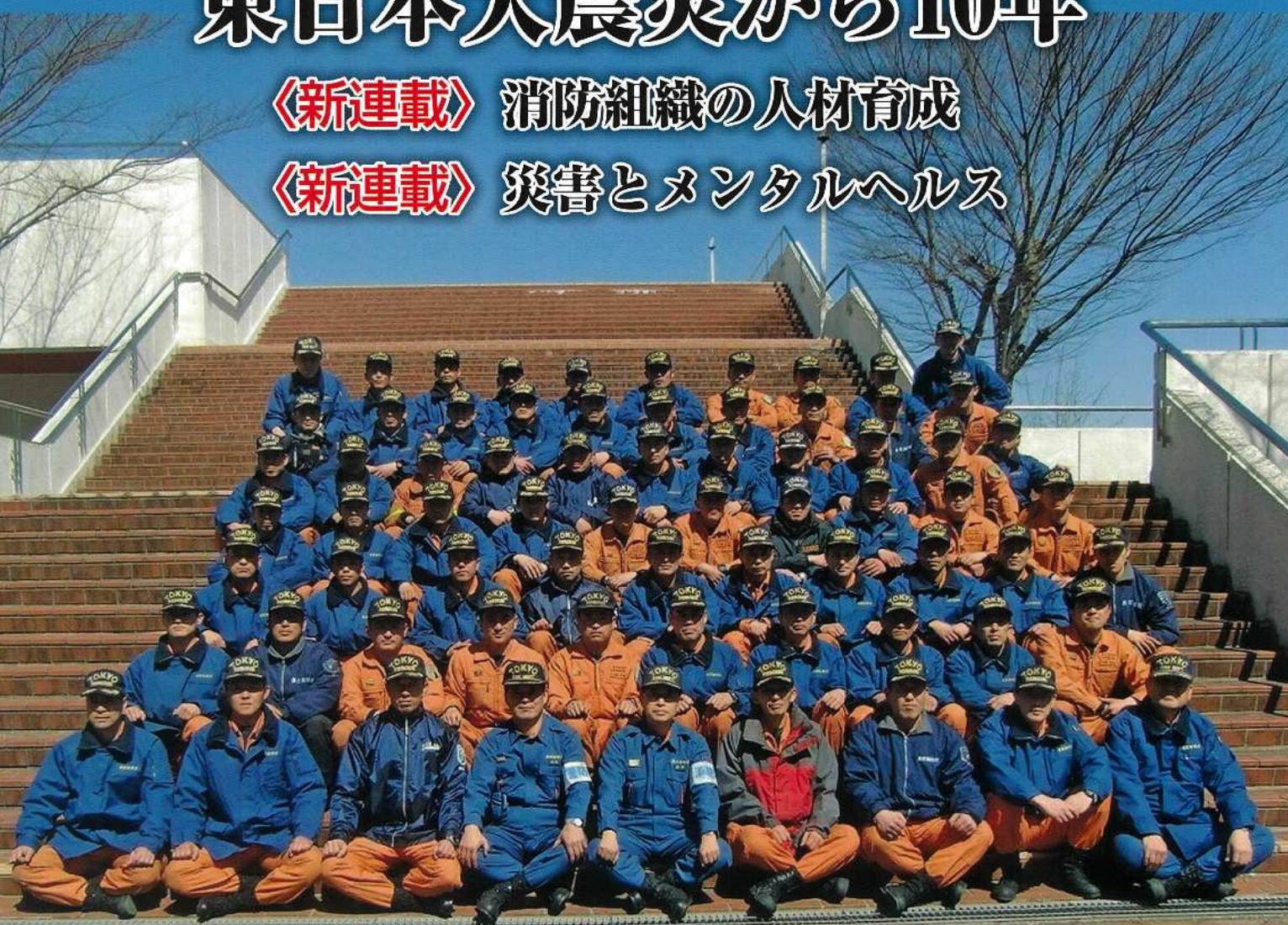
THE FIREFIGHTER

Mar. 2021
No.724

東日本大震災から10年

〈新連載〉 消防組織の人材育成

〈新連載〉 災害とメンタルヘルス



新型コロナウイルス感染拡大の中で起こっている
幾つかの疑問に思うこと

〈全国消防最前線⑯〉 東日本大震災活動検討会

東日本大震災時の東京電力福島第一原子力発電所
事故に係る消防活動と東京消防庁作戦室



CSR・ブリーチング訓練

—2020年11月29日・12月20日 佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部—



※ カラーグラビアの説明は、本文
P.58～P.59で掲載しています。



BC災害対応訓練

—2020年12月10日 豊川市消防本部—



渋谷で火災予防と感染防止を広報

—1月15日 東京消防庁渋谷消防署／東京都／渋谷区—

新型コロナウイルス感染症拡大に対する（1月7日からの再度の）緊急事態宣言の状況下、東京消防庁渋谷消防署は1月15日、東京都、渋谷区と連携し、渋谷スクランブル交差点付近で、火災予防、感染防止に係る広報を行った。渋谷は都内有数の繁華街。週末にあたる同日、同署職員が道ゆく人々に対し、住宅火災（特にガスこんろ火災）の防止、早期帰宅を呼びかけるリーフレットを添付したマスクを配布した。同署の渡邊多華子予防課長は次のように語った。「令和2年中の火災発生状況をみると、東京消防庁管内では住宅火災が増加し、特に、ガスこんろの火災が384件で昨年より63件増加しています。緊急事態宣言が発出され、外出自粛やテレワークによる在宅中に自宅で調理する機会が増えることが予想されることから、ガスこんろなどによる火災予防を呼びかけるとともに、不要不急の外出自粛のお願いを広報しています。渋谷消防署署員は一丸となって渋谷区の安全・安心のために取り組んでいます。」

東京消防庁ではこのほかにも、消防車両、拡声器等を活用した同様の広報を行っている。

日野レッドドルフィンズとスクラムを組んで火災予防 —東京消防庁日野消防署—

東京消防庁日野消防署が、東京・日野市に本拠地を置く日野レッドドルフィンズ（ジャパンラグビートップリーグ）とスクラムを組んで火災予防を日下推進中である。選手をモデルとした写真による火災予防広報を企画した同署の協力依頼に対し、日野レッドドルフィンズは「火災予防に協力できるのであればぜひ」と快諾した。写真撮影に協力した元日本代表の堀江恭佑選手、元オールブラックスのオーガスティン・ブル選手の2名のキャプテンは、師走の寒風の吹きすさぶなかで消火器や広報用横断幕を掲げるなど、様々なカットでの撮影に協力した。今回撮影された写真を掲載した同署の広報誌が、火災予防運動等を通じ、市内の事業所、町会や自治会へと配布されていく。

CSR・ブリーチング訓練

—2020年11月29日・12月20日—

佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部—

佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部（千葉県）は2020年11月29日と12月20日、管内の大同産業株式会社の協力により、同社の敷地内においてCSR・ブリーチング訓練を行った。両日ともに同本部の救助隊等25名が参加した。この訓練は座屈倒壊及び土砂災害の現場を想定し、倒壊建物内の狭隘空間における救出活動（CSR：Confined

Space Rescue）、瓦礫上の活動の研修、破壊器具に係る基礎的取扱・救助技術の習得を目的とし、災害対応能力及び安全管理能力の向上を図るものとなった。

B C災害対応訓練

—2020年12月10日 豊川市消防本部—

豊川市消防本部（豊川市消防署）（愛知県）は2020年12月10日、市内の豊川公園内で、B C災害対応訓練を行った。この訓練の想定は「陸上競技場スタンド内において何者が液体を撒き散らし、多数の負傷者が発生している」という通報内容のテロ災害。これまでに大規模テロ災害を経験していない同市が、東京2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、同災害対応能力の強化、NBC（Nuclear Biological Chemical）災害対応マニュアルの再確認を目的として訓練を展開した。

消防団と消防隊による震災対応連携訓練発表会

—2020年11月8日 名古屋市消防局—

名古屋市消防局は2020年11月8日、名古屋市消防学校において、大規模地震発時の大規模火災を想定し、震災対応連携訓練発表会を開催した。大規模地震発時において、消防団と消防隊の連携活動能力の強化を目的として、日頃の訓練の成果を確認した。

発表会は、各区から発表部隊（消防団2団、消防隊1隊）を編成し、「大規模地震発時の火災を想定した延焼防止活動を実施する」との想定で、災害現場の情報収集及び情報の共有とタンク車からの長距離ホース延長、連携した活動による筒先配備などを主眼に置いて実施し、消防団が消防隊をサポートして放水活動を行うなど、日頃の訓練の成果を遺憾なく發揮した。

10年ぶりに防火服及び防火帽を一新

—2月1日 可茂消防事務組合消防本部—

可茂消防事務組合消防本部（岐阜県）は2月1日、10年ぶりに防火服及び防火帽を変更した。2017年（平成29年）に改定された「個人装備に係るガイドライン」に準拠する新防火服にするため仕様を変更し、デザインを一新した。

新防火服は、従来のものより耐熱性・視認性・運動機能性に優れ、ヒートストレス対策として保冷材用ポケットが標準装備されており、隊員の活動性と安全性を向上させている。今後も災害対応力を高め、住民の皆様の生命と財産を様々な灾害から守れるように努めていく。